

Title	経済學認識論ノ若干問題(二、完)
Author(s)	左右田, 喜一郎
Citation	經濟論叢 (1915), 1(4): 519-538
Issue Date	1915
URL	https://doi.org/10.14989/126914
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷一第

論說

● 收益ト生産費トノ關係

● 專賣ト戰後財政

● 經濟學認識論ノ若干問題(二完)

雜錄

● 危險分散主義ノ原則

● 經濟主義ニ就テ

● 英吉利ノ農政問題(二完)

● 享保年間ノ米價調節(三完)

雜報

● 經濟の進化ト人口法則(二)

● 戰爭利得稅新案

● 獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新説

● 英國ノ戰費ト經濟

● 獨逸ノ植民の運動ノ回想

● 相續稅ト家族制度

● 本多利明ノ著書ニ就テ

● こんらーど教授逝ク

法學博士 河上肇

法學博士 小川郷太郎

商學士 左右田喜一郎

法學博士 神戸正雄

法學博士 戸田海市

助教授 河田嗣郎

法學士 本庄榮治郎

講師 米田庄太郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 神戸正雄

助教授 河田嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 神戸正雄

法學士 本庄榮治郎

助教授 河田嗣郎

經濟學認識論ノ若干問題 (二、完)

左右田喜一郎

三

上來述ベタ如ク諸經驗的概念、ニハ必ズ *Das Apriori* アリトスルコトハ、經濟學上ノ如何ナル概念ニモ何等ノ留保ナシニ適用セラルル論デアル。故ニ茲ニ重ネテ之ヲ論スル要ハナイ、唯ダ概念ノ *Das Apriori* ガ經濟學ニモアリトスルコトガ實際問題トシテ經濟純理考究ノ上ニ必要タルハ、其ノ *das Apriori* ガ經濟學上ノ *das Apriori* トシテハ經濟學ソレ自身ノ認識目的ニ制約セラルルカラデアアル。從ツテ余ハ茲ニ主トシテ經濟學ノ他學ト論理上分岐セラレテ獨立ノ存在ヲ保有スルニ付テハ如何ナル斯學特有ノ認識目的、存スルカノ點ヲ明ニシタイト思フ。

凡ソ一個ノ學問ガ獨立ノ存在ヲ保有シ得ルハ、原則トシテ、其ノ學ノ對象夫レ自身ニ制約セラルル爲メニアラズ、對象ガ吾々ノ認識ニ依リ、吾々ノ認識ニ於テ、統一の體系ヲ保ツニノミヨル。對象夫自身ニヨリテ制約セラルル場合ハ對象ガ認識主

體ノ認識ヲ制約シテ、統一的體系ヲ強キ得ル場合ニノミ限ル。認識ノ成果ガ統一ヲ保ツヤ否ヤニ依ツテ一學問ガ論理上獨立ニ成立スルヤ否ヤガ決セラルルノデア。從テ同ジ認識對象ニ付テモ、其ノ認識目的ノ相違ニヨリ種々異ナル學問ノ對象トナリ得ル。故ニ或ル對象ガ豫定的ニ必ズ一學ノ對象タリ得トカ、又ハ反對ニ、必ズ他ノ學問ノ對象タリ得ズト云フガ如キコトハ斷ジテナイ。天地間ノ森羅萬象ガ或ハ社會學ノ對象トナリ、或ハ經濟學ノ對象トナリ、或ハ商業學ノ對象トナリ、或ハ地理學ノ對象トナリ、或ハ物理學ノ對象トナリ、或ハ心理學ノ對象トナリ、或ハ史學ノ對象トナルハ、一ニ其ノ學ノ認識目的ニヨリテ、認識對象ガ吾々ノ特殊ノ思索體トナリ、統一的ノ體列ニ參スルカラデア。學者ガ時ニ學ヲ對象ニヨツテ分テ自然科學ト歴史トナルトスルハ、畢竟ハ吾々ノ認識ヲ形式ト素材トニ分チ、前者ハ合理的後者ハ非合理的ナリ、從ツテ前者ハ普遍化ニ盡キ得、後者ハ個性化ニ上リ得ルニ依ルモノテ、認識對象ノ素材的區別ニヨリテ兩學ノ理論的性質ヲ決スル次第デハナイ。吾々ノ認識ノ論理的構造ノ上ノ二元主義ニ制約セラレテ、吾々ノ認識成果ガ之ヨリ離ルルコトヲ許サヌカラ、之カラ特殊ノ認識目的の生ジ從テ以上二ノ科學ガ發生

スルノデアアル。故ニ此ノ點ニ於ケルリつけるトノ説ニ余ハ不服ナキヲ得ナイ。現ニ
りゝるハ此ノ認識論上ノ二元主義ヲスラ無視シテ "Die Wissenschaften geschieden durch
ihre Gegenstände, sind durch die Methode zur Einheit des Wissens verbunden" * * * トサヘ稱ヘテ、
Einheit der wissenschaftlichen Methode ヲ主張シテ居ル。余ヲ以テ見レバりゝるハ吾等ガ認
識ノ一面ヲノミ見ルニ急アルモノト評セザルヲ得ナイ。何トナレバ一面ニ於テ凡
テノ認識對象ヲ合理化シ得ルコトハリゝるノ云フ如クナレドモ、他面ニ於テ非歸
一的 (Unreduzierbar) ノ非合理アルコトヲ忘却シタモノト思フカラデアアル。只認識目
的ノ統一ヲ主張スル氏ガ、智識ノ統一ヲ主張スルハ當然デアツテ、認識對象ノ素材
的區別ニヨリ知識ノ統一ハ密セラルルコトナシト云フハ至當デアアル。要之認識ノ
成果ガ特定ノ認識目的ニヨツテ其ノ體系ニ列セラルル所ニ凡テノ學問ガ成立ス
ルノデアアル。其ノ認識目的ガ吾人ノ隨意ニ定ムル所ナルカ即チ實際上ノ便宜ト云
フガ如キ理由ニヨツテ定メラルルカ、又ハ吾々ノ認識ノ構造ソレ自身ニヨリテ定
メラルルカハ、一般ノ問題デアアルガ隨意ニ定ムルニシテモ、其ノ論理上ノ理由ナク
シテハ學トシテハ成立セヌ。從テ各學ノ認識目的ハ畢竟スルニ各其ノ論理上ノ特

殊ノ *raison d'être* ヲ有サネバナラヌノデアアル。

然ラバ我ガ經濟學ノ認識目的ハ何カ、其ノ論理上ノ根本ハ如何ト云フ問題ガ起ル。今茲ニ吳々モ斷ツテ置カネバナラス、余ハ今經濟學ノ認識目的從ツテ經濟學ソノモノノ *creation* ヲ試ムルノデハナイ。かんと以前ニモ既ニけふらゝがりれいにゆーとん等アリテ自然科學ハ確立シテ居タ。而カモかんと起ツテ自然科學ハ初メテ論理的ニ立證セラレタ。今此ノ如キ意義ニ於テ經濟學ノ論理的立證ヲ試ミントスル努力ニ若干ノ貢獻ヲシタイ。而シテ經濟學ノ論理的立證ヲナスニハ經濟學ノ學トシテノ位置ヲ定ムルコトガ先決問題デアアル。

認識ニ於ケル批評主義ノ特徴ハ觀念的、超越的、先天的認識要素ト經驗的、後天的要素即チ認識ニ於ケル前提トシテノ形式ト、經驗タル素材トガ、理論上分歧シ、而カモ事實上結合セララルト云フ點ヲ究明シタルニアル。此ノ認識ノ論理的構造ヲ形式ト素材トニ對立セシムルニ關シテ起リタル幾多ノ論爭ハ茲ニ顧ミル要ハナイ。唯ダ此ノ合理ト非合理トニヨリ、學ガ如何ニ區別セララルルヤヲ見レバ足リル。左ニ之ヲ表示スル。

合理的 (rational) } 哲學——理性 (Vernunft) = 關ス
 純正數學——純粹直觀 (reine Anschauung) = 關ス
 純正自然科學——純粹悟性 (reiner Verstand) = 關ス
 先天的 (A priori)

非合理的 (irrational) …… 歴史——後天的 (aposteriori)

素トかんごハ自然科学ヲ論ズルニ當ツテ其ノ經驗ノ可能ニ對シテ論理的根
 ヲ與ヘ之ニヨリ自然科学ノ可能夫レ自身ヲ立證シタ其ノ意純粹悟性ノ批評ヲ與
 フルニアツテ經驗的悟性ノ理論ヲ與フルニハアラザリシガ故ニ „Analogie der Er-
 fahrung”ト稱セラレタル Grundsatz der Beharrlichkeit der Substanz, Grundsatz der Zeitfolge nach
 dem Gesetz der Causalität 及ヒ Grundsatz des Gleichens nach dem Gesetze der Wechselwirkung,
 oder Gemeinschaft——命名ハ凡テ Vernunftkritik 第二版ニヨル——ノ如キ經驗ヨミテ可
 能ナラシムル最一般的法則ノ證明ニ勉メテ之等ヲ以テ個々ノ besondere empirische
 Naturgesetze トハ全ク區別スベキモノトシタ。即チ前者ハ Gesetz des Empirischen ニシ
 テ後者ハ empirische Gesetze ト稱スベキデアアル (1) 之ガ爲メニ個々ノ經驗科學ノ地位
 ニツキテ幾多ノ論争ヲ惹起シへるをどノ如キハ然ラバ何處ヨリ對象ノ特殊ノ
 形態ヤ關係ヤハ來ルカト反問スルニ至ツタノデアアル其ノ極端ハふむひてデアアル

かんとノ意ハ意識ノ統一作用ヨリ經驗ノ形式的統一ヲ導ク以外ニ出デザリシモノヲふむひてハ凡テノ經驗ヲ内容上ヨリ見テ自我ヨリ抽出スルニ至ツタノテアル。此ノ點後世ノ Methodenlehreヲ研覈スルモノニ甚ダ困難ナル問題ヲ殘シタニ相違ナイ。併シ此ノ點ニ於テ考フベキコトハ或ル程度迄ハ、經驗的認識モ、先天的形式的認識ノ中ニ含マルルコト是デアル。經驗的認識モ一般的認識ノ條件ニ從ツテ普遍的形式ニ攝取セラレテ、經驗トシテ成立スルニ至ルガ故ニ、此等ノ經驗ヨリ各種ノ自然法則ガ出來上レバ此等ハ即チ經驗的ナリト雖モ尙ホ論理的法則ト稱セザルヲ得ナイ。換言スレバ經驗的法則モ *Gesetze der Empirie überhaupt*ニ制約セラレテ之ニヨリテノミ其ノ成立可能トナル故ニ其ノ本質ニ於テ亦此ノ法則ト同一ノ論理的性質ヲ有ス。各種ノ經驗科學モ自然科學的ノ考察ニ入ルトキハ、畢竟先天的根本原則ニ支配セラレザルベカラズ。故ニ各種ノ經驗科學ハ其ノ究極ニ於テ合理化セラレ科學的方法ノ統一ニ到達セザルヲ得ナイ。乍併他方ニ此ノ如キ先天的形式ニ對立シ且ツ認識素材ヨリ出デタル *Empirie*ガ *Rationales*トシテ存在スルヲ否定スルヲ得ズ。余ハ其ノ *Irrationales*ソレ自身ガ直チニ歴史ヲ形成スルトハ云ハス。 *Irrationales*

ガ歴史ノ形ヲトルニハ尙ホ一定ノ認識形式ニ攝取セラルルヲ要ス然レトモ其ノ形式ハ純粹悟性ノ根本原則デハナイ。經驗ヲ最モ始メ可能ナラシムル最一般的方法則ハ *Empirie* ヨリハ生ゼヌ。之ト同時ニ *Empirie* ハ又逆ニ此等ノ最高法則ヨリ出デ來ラス。然ラズンバ經驗ハ其ノ根本タル此等法則ニ客觀的妥當ヲ與フルコトヲ得ズ、一切ノ經驗ト法則トハ概念ノミヨリ生ズルニヨリ再ビかんと以前ノ形而上學ヲ現出セネバ止マスコトトナル。此ノ如ク *rationalle Empirie* ガ經驗ガ依ツテ可能トナル根本原則ニ對立シテ、相互ニ非歸一的タル點ニ自然科學ニ對シテ他ニ一科學存在セザルヘカラザル理由存セリト信ズ。而シテ之ヨリ發生シタル認識成果ハ即チ歴史的學問デアルかんとハ最モ明快ニ「純粹理性批判」ニ此ノ事ヲ說イテ「*Erfahrung lehrt uns wol, was da sey, aber nicht, dass es gar nicht anders seyn könne*」*ト云ヒ明カニ吾等ガ認識ニ二ノ *inkommensurable Grössen* ガ對峙シテ居ルコトヲ說イテ居ル。びゐんでるばんでノ用語ヲ使ヘバ「*das ge erelle apodiktische Urteil*」ニ向ヒ他ハ *der singuläre ass. rtorische Satz* ニ對スルノデアル。前者ノ建設ハ自然科學ノ認識目的デアツテ後者ノ樹立ハ歴史ノ認識目的デアル。(2) *Positivismus* ノ主張ノ如ク「*aus der Geschichte eine*

Naturwissenschaft zu ma chen" 歴史ヲ一ノ自然科学トナスハ獨逸ノ學者ノ論ズル如ク不當ト思フ。

(1) 人心カ自然ヲ "Wir müssen (aber) empirische Gesetze der Natur, die jederzeit besondere Wahrnehmungen voraussetzen, von den reinen, oder allgemeinen Naturgesetzen, welche, ohne dass besondere Wahrnehmungen zum Grunde liegen, bloß die Bedingungen ihrer notwendigen Vereinigung in einer Erfahrung enthalten, unterscheiden, und in Ansehung der letztern ist Natur und mögliche Erfahrung ganz und gar einerley....." (Volegonnena 1783, S. 113) 一。

(2) さくらてすが凡テノ學術の思惟ノ根本ヲ普遍ノ特殊ニ對スル關係ニ於テ見、ふらこらんが前者ニノありすことれ一すが後者ニ實在ヲ認メタコトハ希臘哲學史上一般ニ知ラレタ事實ヲアル。

四

此ノ學問ノ體系中ニ於テ經濟學ハ如何ナル位置ヲ占ムルヤ、經濟學ハ自然科学ニ屬スルカ、歴史ニ屬スルカ、其ノ兩者ニ共ニ屬スルカ、其ノ兩者ノ何レニモ屬シナイカ。余ハ上來論ズル所ニヨリ經濟學ハ斷ジテ自然科学ニ屬シナイト信ズル。當代ノ先進しゆもら一ハ其ノ壯時ノ極端ナル主張ヲ緩和シテ遂ニハ "Der Drang aller Wissenschaft, mit der Zeit nō, sichst deduktiv zu werden" *ト云フコトヲ力説シテ我が經濟學ノ最終ノ目的亦正サニ然ルベシト云フテ居ル。此ノ主張ガ論敵カゝる、めんが一ノ所

* Grundriss. I. 1908. S.110.

謂「Theoretische Nationalökonomik」ノ建設ニ相當スルモノナルコトハ云フ俟タヌガ、兩者共ニ此クシテ成立スベキ學問ガ正當ニ學ノ論理上ノ性質ヨリ見テ höchstens「經濟心理學」ト命名セラルベクシテ、而カモ其ノ學問ノ體系上自然科學トシテノ心理學ノ一部ヲナシ、最早經濟學ノ範圍内ニアラザルベキ理ヲ悟ラザルニ於テ其ノ接ヲ一ニシテ居ル。茲ニ諸學者ノ議論ヲ一々紹介スル煩ニ堪エナイ。殆ンド凡テノ經濟學者ガ經濟學ノ認識目的ヲ惟一つゝゐると共ニ「Die Wirtschaftstheorie ist……die Wissenschaft von der spezifischen Wirkungsweise des wirtschaftlichen Motivs als eines der psychischen Causalmomente menschlichen Handelns」* トスルニ一致スル。只多クノ學者ハ惟一つゝゐるノ如キ論理的頭腦ヲ有セザルガ爲メニ之ヨリモ生温ルキ立言ヲナスニ過ギナイ。徹底的ニ考フルモノハ、此ノ窮極ヲ認容セザルヲ得ナイ。

此ノ殆ンド凡テノ經濟學者ノ論ニ向ツテ余ハ只簡單ナル一問ヲ發シタイ。モシ之ガ經濟學ノ終極ノ認識目的ナリトスルナラバ、經濟學ハ畢竟ズルニ一自然科學トシテノ心理學ニ攝取セラレテ、何處ニ經濟學獨特ノ、之ニヨリテ學トシテ獨立スルヲ得ル das endgültige Erkenntnisziel ガアルカト。余ハ不幸ニシテ心理學以外ニ經濟

* Theoretische Sozialökonomik. 1895. S. 76.

學ヲ獨立ノ學トシテ論理上ノ根基ヲ與フベキ認識目的ナクシテ何故ニ自然科學ノ中ニ經濟學ニ獨立ノ位置ヲ與ヘ得ベキカノ理由ヲ觀取スルヲ得ス。

モシ從來ノ經濟學ノ認識對象ガ内的精神的现象ノミニ止マラズ外的物理的现象ニ關スルモノアルニヨリ、此ノ方面ニ於テモ、尙ホ自然科學ノ認識目的ヲ以テ經濟學ノ認識目的トスルナラバ、自然科學トシテノ技術學、力學、總ジテ物理學以外何物カ學トシテ論理上ノ存在ヲ保テ得ルカ。

モシ經濟學ノ認識目的ニシテ其ノ對象ガ内的外的ノ現象タルニ關セズ、自然科學ノ如ク概念ニノミ盡クルコト世ノ一般ノ經濟學者ノ論ズル所ノ如カラシニハ、何處ニ經濟學ノ論理上ノ獨立アリヤ、經濟學カ論理上ノ獨立アリト、主張スルモノハ何故ニ此ノ論理ノ矛盾ヲ見得ザル

五

然ラバ經濟學ハ歴史ニ屬スルカ、答、然リ。

經濟學ノ對象ガ人類ノ經濟生活ニアルコト云フ迄モナイ、其ノ經濟生活ノ生起發達沈滯ニ外界ガ交渉スルコトハ、凡ソ人類生活ガ此ノ構造ノ世界ニ於テ營マル

ル以上然ルベキコト勿論デアルガ、此ノ場合外界ハ凡テ歴史生活人生ニ關聯シテ意義アルモノト見ラルル所ニミ吾人ノ考察ニ入り來ル。此ノ交渉ヲ離レテ學問ノ對象トナルトキニハ、自然科學ガ成立スルコトハ前ニ論ジタ。而シテ人類ノ經濟生活ガ人生 überhaupt ノ一方面的解釋ノ認識成果ナルヲ悟ラザルハ人類ノ歴史的生活ガ『與ヘラレタルモノ』トシテ『其ガ實際ニアリシ如ク』(“wie es wirklich gewesen ist”)ニ之ヲ記載スルモノ即チ歴史ナリトノ認識論上ノ誤レル naiver Realismus ヨリ來ル。凡テノ經驗ハ吾人ノ認識ノ條件形式ヲ經テ初メテ經驗トナルニヨリ、人類ノ歴史生活モ吾人ノ認識ノ先天的 Sollen ニ照合セラレ、先天的形式ニヨリテ初メテ歴史生活トシテ認識セラル。“Se. welle des historischen Bewusstseins” 以下又ハ以外ニアル人類ノ歴史生活ガ『與ヘラレタルモノ』トシテ如何ナルモノナリヤハ全ク吾人ノ認識以外ニ在ル。此ノ如キ歴史の觀念主義 (historischer Idealismus) ノ立場ニ立ツテ見レバ經濟生活ハ人類生活ノ一方面的解釋ニ過ギス。而シテ其ノ解釋ヲ可能ナラシムル所以ノ根基タル認識目的ハ學トシテノ經濟學ヲモ亦可能ナラシムルモノデアアル抑々經濟乃至經濟生活ト云フ事ガ物理學上ノ letzte Dinge トシテノ Atom 又ハ必

理學上ノ諸 einfachste Elemente ノ如ク一切ノ時處ヲ離レテ成立シ得ベキ概念ニ非ズシテ irrational ナル認識素材ニ制約セラルルコトハ明カデ一般のニ歴史ヲ可能ナラシムル論理ニ基クコト云フ迄モナイ。此ノ意義ニ於テ經濟生活ヲ對象トスル經濟學ガ歴史ニ屬スルコトハ明カデアル。此ノ認識目的ニ制約セラレタル上デノ認識對象タル經濟生活ガソノ表面ニ於テノミ Generalisierung ノ行ハルルコトハ可能ナリト信ズル。是即チめんがーノ所謂 Theoretische Nationalökonomie ト稱スルモノデアツテ世ノ多クノ論者ガ誤マツテ經濟學ニハ經濟史以外ニ理論的部分アツテ茲ニ因果法則ハ求メラレ之ヲ以テ學問ノ要ナリ學問ノ最終ノ目的ナリトスルモノデアル在併此ノ Generalisierung ガ經濟學ノ最モ奥ニ潛メル認識目的ニ制約セラレ、所謂 historischer Idealismus ニヨツテ吾人ノ認識成果トナツテ上ツテ來タ其ノ表面ニ於テノミ可能デアツテ、從ツテ此ノ意義ニ於テ所謂歴史的法則ニ經濟法則ガ可能デアルト云フ理ヲ見誤マツタノデアアル。モシ此ノ場合ニ經濟學自身ノ認識目的ヲ先天的內在的條件トシテ人類ノ經濟生活ガ吾人ノ認識ニ上リ來ルコトヲ忘レテ時處ニ全ク制約セラルルコトナキ generalisierende Begriffe ニ aufgehen セシメ所謂經濟法則ナルモノモ自

然法則ナリトスルナラバ、又實際論理上ノ自然法則ガ其處ニ求メラルルナラバ、經濟學ハ全ク其ノ影ヲ潛ムニ至ツテ、其ノ代ハリニ現ハレ來ルモノハ一自然科學トシテノ心理學アルノミデアアル。所謂 individualisierende und generalisierende Begruendungハ各其ノ論理的要求ニ從ツテ只此ノ一定ノ認識論的表面ニ於テノミ可能デアアル。而カモソカ凡テ經濟學ノ對象トシテ存立スルコトヲ得ンニハ、飽ク迄一切ノ概念一切ノ認識ハ經濟學ノ認識目的ニ制約セラレテアラネバナラス。りつかいヒガ歴史ト自然科學トノ間ニ中間範圍*トシテ生物學、經濟學等ヲ説ク所ハ確カニ此ノ重要ナル點ヲ看過シタモノデアアル。曩キニ拙著 Die logische Natur der Wirtschaftsgesetzeニ於テ余ハ此ノ點ヲ明カニ論ジテ置イタガ das endgültige Erkenntniszweckニ於ケル Mittelgebiet, Misc. form.ハ、認識論上無意義ナルノミナラズ一個ノ矛盾デアアル。das endgültige Erkenntniszielハ必ズ歴史、自然科學ノ何レカーニアラネバナラス。其ノ内ノ一ニ位置ヲ占メテ而シテ其ノ表面ニ於テノミ個々ノ概念ガ或ハ普遍化ニ或ハ單一化セラレテ認識ニ上リ來ルコトハ妨ゲナイガ其ノ場合ニ窮極ノ認識目的ニ於テ兩者共ニ與カリ得ルトスルハ、吾人ノ論理之ヲ許サズ。吾人ノ認識機關ハ其ノ不能ナルヲ訴

* Rickert, Kulturwissenschaft und Naturwissenschaft. 2. A. 1910 S. 106 ff

ヘル。此ノ兩者ニ共ニ與カリ得ト説カントスルモノハ、らゝいぶにつつノ昔ニ歸ツテ Verités éternelles ハ其ノ根原ヲ神ノ悟性ニ verités de fait ハ其ノ根原ヲ神ノ意志ニ覓メルガ如クセネバナラス、余ハソノ可ナル所以ヲ知ラス。

之ニヨツテ經濟學ノ學トシテ位置ハ明カニナツタ、是レヤガテ經濟學ノ認識目的ニ一個ノ濃厚ナル色彩ヲ與ヘ、傍ラ余ノ史學認識論ニ於テモ世ノ論者ノ多クニ反對スル意見ノ一班ヲ間接ニ示シ得タト思フ。今此ノ點ニ於テ殘ル唯一ノ問題ハ然ラバ經濟學ノ認識目的ガ歴史ノ認識目的ト區別セラレテ存スルハ何故カ、換言スレバ史學トシテノ經濟學ノ特殊ノ認識目的ハ何ニヨリテ表明セラルルカ。

余ハ此ノ點ニ關シテモ既ニ前掲舊著ニ於テ述ベテ置イタ通リ此ノ如キ經濟學ノ認識目的ハ二ノ條件ニヨリテ内容的ニ制約セラレナケレバナラスト思フ。即チ一ハ凡テ經濟的ト稱セラルル一切ノ現象ハ、ソヲ全體トシテ見ルトキニハ、他ノ社會的、歴史の乃至自然現象ト區別スル爲メニ、此ノ如キ中心的ノ Leitende Idee ナクシテハ決シテ他ノ Merkmal ヲ發見スルヲ得スト云フ様ナモノデナケレバナラナイ。即チ現今ノ經濟組織、經濟生活ニ對シテ論理上ノ Apriorität タリ得ルモノデナケレバ

ナラヌ。他方ニハ第二ノ條件トシテ此ノ如キ中心觀念夫レ自身モ經濟組織ト同様ニ一個ノ歷史的產物デアツテ、經濟組織ノ前提トモ稱セラルルモノニ對シテ、其ノ認識論上ノ意義ニ於テモ、其ノ歷史上ノ生起ニ於テモ、相互的ニ制約スルモノ、テナクレバナラヌ*。恰モ人類ノ法律生活ヲ解釋スル法律學ノ中心思想ガ權利義務ニアルガ如ク、一切ノ人類行爲ガ法律學ノ對象トナル爲メニハ、此ノ概念ナクシテハ他學ト區別スベキ認識目的ヲ失フト同時ニ、權利義務ノ概念モ亦夫レ自身一個ノ史的產物デアツテ、今日ノ法律生活ニ認識論上ニモ、史上ノ生起ノ上カラ見テモ相互ニ制約スルモノアル様ノ如キモノガ、經濟學ニ於テモ獨立ノ一學科タル爲メニハ必要デアツテ、之アリテ初メテ經濟學ハ他學ト別レテ一個ノ獨立ヲ保チ得ルニ至ルノデアル。

余ハ此ノ二條件ヲ充タス經濟學ノ中心思想ヲ求メテ之ヲ「貨幣」ニ得タ。一切ノ人類ノ歷史生活ガ貨幣概念ニ *Denk- u. d. S. e. r. l. e. t. a. l. t. o. k. i. n. o. m. i. e. n. t. a. l. e. s. t. u. d. i. u. m. d. e. r. e. k. o. n. o. m. i. e. n. t. a. l. e. n. t. i. a. n. e. n. d. e. r. g. e. l. d. b. e. g. r. i. f. f. n. i. b. e. z. i. e. h. e. n.* シテ解釋スヲ得。即チ經濟學ノ認識目的ハ人類ノ歷史生活ヲ *Geldbegriff n. i. b. e. z. i. e. h. e. n.* シテ解釋スル所ニ在ル、此以外ニ經濟學ノ認識目的、ヲ、内容、的、ニ、制、約、ス、ル、コ、ト、ハ、斷、ジ、テ、出、來、ナ、イ、

余ハ行論ノ順序トシテ茲ニ此ノ如ク解セラルベキ貨幣概念ガ如何ナル認識論上ノ性質、構造、重要ヲ有スルカヲ説カチバナラヌガ、茲ニ所謂「貨幣中心論」ハ余自身ニハ少クトモ十年以來ノ思索ノ結果デアツテ、舊著 *Geld und Wert* 1909 ニモ *Die logische Natur der Wirtschaftsgesetze* 1911 ニモ夫々必要ノ條下ニ於テ、機會アル毎ニ詳シク述ベテ置イタカラ、讀者モシ本論讀過ノ際ニ多少ノ興味ヲ得タラ同書ヲ一讀スルノ煩ヲトラレンコトヲ希望スルニ止メテ置ク。

余ハ經濟學ノ認識目的ニ内容の決定ヲ與フル *das äussere Merkmal* ハ貨幣概念ニシテ之ニ *Bezugnahme* スルコトニヨツテノミ經濟學ニ特殊ナル認識目的ハ吾々ノ認識ノ上ニ表ハレテ來、之ニヨツテ經濟生活ハ一種ノ歴史的生活トシテ他ノ人類生活ト區別セラルルニ至ルト信ズル。乍併經濟學ノ認識目的、其ノモノハ他ノ凡テノ經驗的科學ノ認識目的ニ於ケルガ如ク、ソノ學ノ *Sollen* トシテ形式的ノモノデアツテ何等ノ内容ヲモ與ヘラルルモノデナイ。此ノ *Sollen* ヲ考究スルコトニ於テ經濟學ノ對象タル經濟生活ノ *Sinn* ヲ尋ヌルコトガ意義ヲ有スルノデアアル。

六

凡ソ一經驗科學ノ哲學ニ對スル關係ハ二様ニ見ラルルコトジむめるノ云フガ如シ。一ハ經驗科學ノ下限ニ位シテ其ノ學ニ特殊ノ認識論的根基ヲ與ヘ、其ノ前提ト形式トヲ供スルモノナルガ故ニ、如何ニシテ其ノ學ガかんとノ用語例ニ從フテ「可能」下ナルヤヲ示スモノデ、他ノ一ハ經驗科學ノ上限ニ位シテ其ノ學ノ對象トスルモノノ個々のナルヲ Begriffliche Vollendungニ導クモノニシテ、其ノ對象ガ人類生活ナラバ其ノ生活ノ終極ノ目的及ビ意義ハ何ナリヤヲ闡明スルニ在ル。一ヲソノ經驗科學ノ認識論ト稱シ得ベクンバ、他ハ其ノ學ノ形而上學ト稱シ得ベキモノデアアル。上來ノ論ズル所ハ此ノ比喩ニ於ケル經濟學ノ下限ノミニ就テデアアル。換言スレバ經濟學認識論ニ基礎ヲ與ヘント欲シタニ過ギヌ。乍併退イテ考フルニ凡ソ人類ノ歴史生活ガ歴史ノ對象トシテ、自然科學ト離レテ、一個ノ認識目的ヲ有セシムル爲メニハ、既ニ説イタ historischer Idealismusニハ内在的ナルベキ且ツ先天的ナル一個ノ Logisches sollenガナケレバナラヌ。而シテ此ノ論理的 Sollenガ歴史ニ關シテハ其ノ歴史的生活ノ中心思想タル Kultur(文化)ニヨリテ其ノ内容ガ制約セラレナケレバナラヌ意味ニ於テ、一個ノ文化價值(Kulturwert)デナケレバナラヌハ勿論デアアル

經濟學ノ對象タル經濟現象ガ人類生活ノ一面的解釋トシテ成立シ之ガ爲メニ經濟學ノ對象タリ得ルニハ、一般的文化價值ニ係テ其ノ存在ヲ見之ト區別セラレテ特殊ノ存在ヲ認メ得可キモノデナケレバナラヌ。即チ文化價值ノ内殊ニ經濟的ナル或ル特有ナル價值ニ *Beziehung* セラレテ初メテ經濟生活ハ我等ノ認識ニ上リ來リカクシテ抑モ經濟生活ハ成立スル。此ノ如キ論理上ノ *Sollen* ハ經濟生活ガ人類生活ノ一方面的解釋ナリトノ理由ニヨリ經濟的文化價值ト稱スベキデアル。此ノ如キ文化價值ガ *allegemeingültig* ナルコトハ他ノ文化價值ト其ノ性質ニ於テ何等ノ差ナキコト勿論デアル。經濟學認識論ニ於テハ此ノ如キ普遍的妥當性ヲ有スル經濟的文化價值ナクンバ抑々經濟生活ハ認識論的ニ可能性ヲ與ヘラルルモノニ非ザルコトヲ論ズル。故ニ余ハ上來ノ論述ニ於テ此ノ如ク解セラレタル經濟生活ヲ可能ナラシメンガ爲メニ、内容的制約ヲ與ヘント欲シテ貨幣概念ヲ拉シ來ツタノデアル。此ノ如キ經濟的文化價值ガ形式トシテ *Sollen* トシテ *Letzstem* トシテ立ツカラ、之ニヨツテ經濟學認識論ハ可能トナリ、之ガ可能トナリテ經濟學ニ論理上ノ前提ヲ與フルニヨリ、經濟學ノ對象ガ可能トナリ、カクシテソノ對象タル經濟生活ガ向フ

歸趣、目的、意義、カ、Sollen タル經濟的文化價值ニ示サレ、而シテ之ニ照合セラレテ其ノ認識論上ノ重要ガ決定セラルルノデアル。此クシテ一經驗科學タル經濟學ノ下限ハ上限ト相互的ニ制約スル關係ニ在ルコトヲ容易ニ見得ル。吾等ガ經濟學ヲ可能ナラシメタ半面ハ經濟生活ノ意義ヲ確ムル經濟哲學ノ半面デアアル。茲ニ於テ哲學ノ個々ノ經驗科學ニ對スル關係ハ上限ト下限トヲ制約スト云フコトハ寧ロ一片ノ比喩デアツテ、事實ニ於テハ此ノ兩者ハ一體デアアル形式上ノ Sollen ナクシテ認識ノ Bedingung ヲ與ヘラレズ、Bedingung ヲ與ヘラレズシテ Sollen タリ得ルモノハナイ。此ノ形式的 Sollen アツテ初メテ個々ノ經驗的科學可能トナリ、兼ネテ此ノ如キ Sollen ハソノ對象ノ歸趣ヲ示スノデアアル。個々ノ經濟生活ガ經濟學ノ對象タルニハ、此ノ如キ形式ガアリ、先天的要素ガアツテ、初メテ可能トナリ、其ノ意義ヲ示ス經濟學ニ於テ現ニ行ハルル naiver Begriffrealismus ヤ Psychologismus ノ論者、例ヘバ欲望ヨリ出發シテ經濟行為ヲ解シ、經濟組織ヲ解シ、經濟ヲ解セントスル論者ノ如キハ此ノ點ニ想ヒ及バヌモノデアアル。

吾等ハ今ヤ經濟哲學ノ最終ノ問題ニ對シツツアル。經濟生活ノ歸趣、目的、意義ハ

何ナリヤヲ研究スル一面ハ、普遍的妥當性ヲ有スル經濟的文化價值ノ一般的文化價值并ニ他ノ個々ノ文化價值ニ對スル地位ヲ明カニスルニアル。而シテ其ノ價值ニ内容の制約ヲ許サヌ處ニ哲學ノ問題ハ在ル。是ヤガテ經濟價值論ナルモノガ一經驗科學トシテノ經濟學ノ範圍内ニ於テ一個ノ Sein トシテ難問ヲ形成スルニ止マラズ他面ニハ經濟哲學ノ最終ノ問題トシテ一個ノ Sollen トシテ「吾々ノ解明ヲ要求スル所以ヲ示ス。茲ニ經濟哲學ノ出發點ト歸趣トガアル。經濟價值論ハ此ノ意義ニ於テ經濟哲學ヲ意味シ、經濟生活ノ窮極ノ意義ハ茲ニ決定點ヲ見出スノデアリ。此ノ意義定マツテ初メテ一經驗科學トシテノ經濟學ハソノ terminus a quo ト terminus ad quem トヲ決スベキデアリ併シ之ハ最早經濟學認識論ノ問題」トシテ論ズベキデハナイ。之ヲ基礎トシテ經濟生活ソノモノノ Sinn ヲ尋ヌルニヨツテ定メラルベキ問題デアル。換言スレバ歴史哲學ノ問題トシテ經濟哲學ガ論セラレネバナラヌ所以デアル。其研究ハ余ガ向後繼續セント欲スル所デアル。(完) (大正四年八月四日稿)